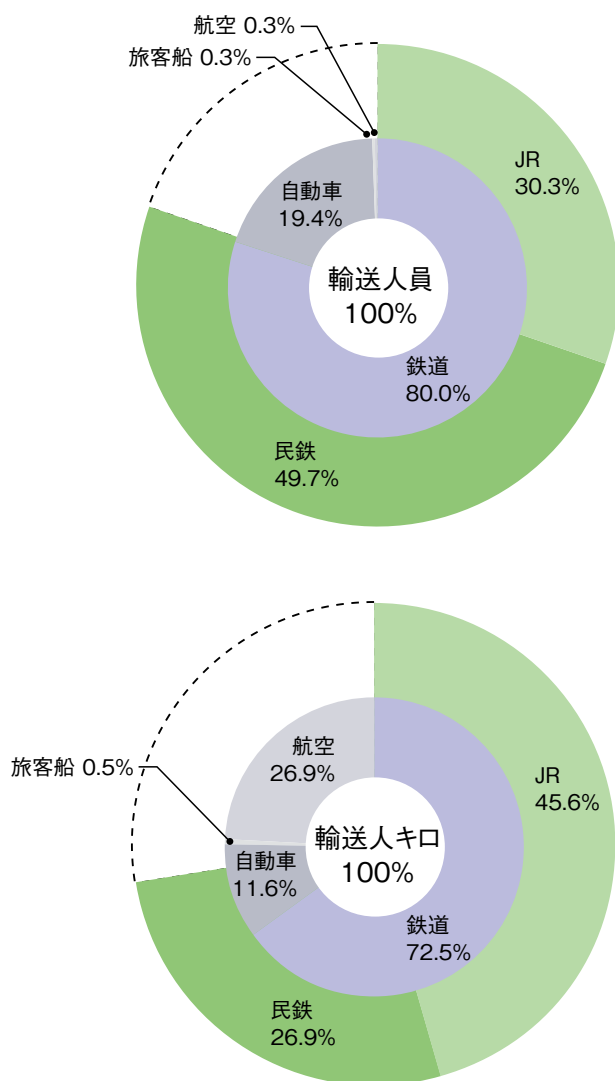


3 交通機関として民鉄が担う役割

3-(1) 旅客の公共輸送機関別分担率

2017年度の国内旅客輸送における民鉄の輸送分担率は輸送人員ベースで49.7%、輸送人キロベースで26.9%を占めています。環境保護やエネルギー効率などの面から、公共交通機関の利用促進が求められているなか、民鉄が旅客輸送の重責を担っていることが読み取れます。

旅客の公共輸送機関別分担率(2017年度)



(注)円グラフの割合は、四捨五入のため、合計は必ずしも100%にならない。

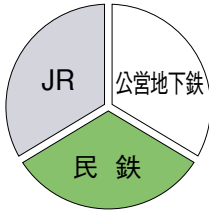
資料:国土交通省「数字でみる鉄道2019」

3-(2) 民鉄の輸送人員の割合(三大都市圏)

東京・名古屋・大阪を中心とする三大都市圏の鉄軌道の年間輸送人員(2013年度)は約207億1,256万人(1日平均約5,674万人)で、そのうち民鉄の占める割合は、首都交通圏で53.9%、中京交通圏で40.8%、京阪神交通圏で45.9%となっており、大都市圏の基幹的な交通機関として、大きな役割を担っています。

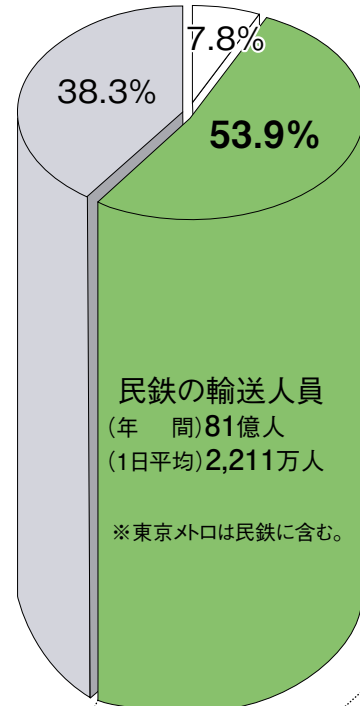
三大都市交通圏の交通機関別鉄軌道輸送人員の割合(2013年度)

■凡例



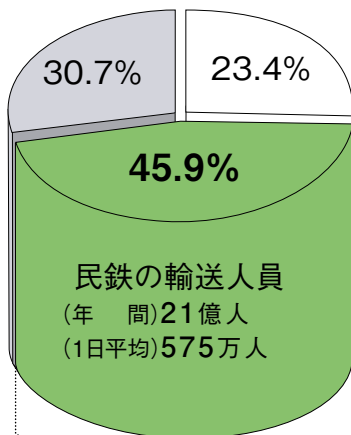
首都交通圏の輸送人員

(年間)149億人
(1日平均)4,100万人



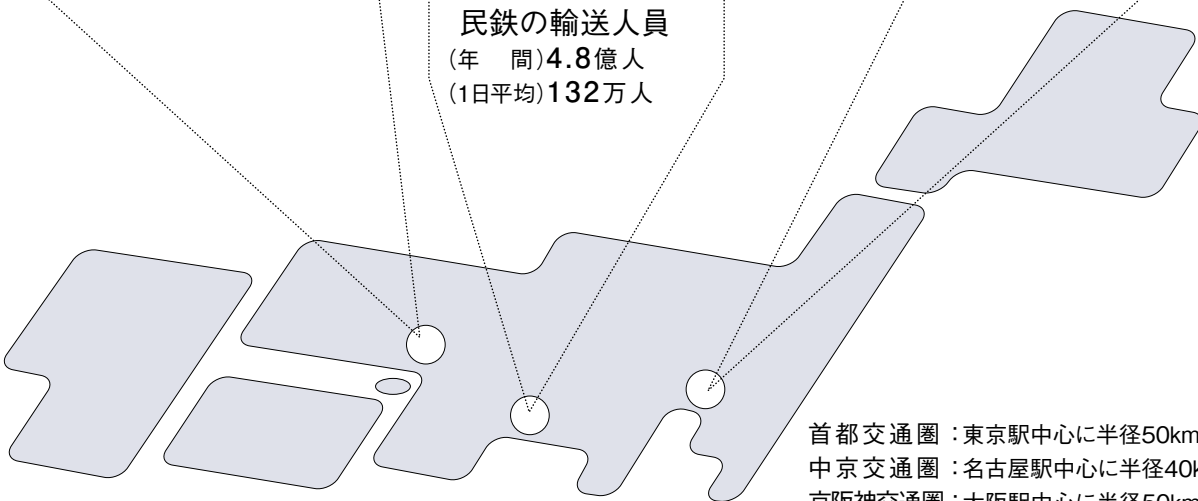
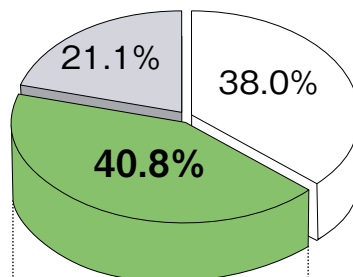
京阪神交通圏の輸送人員

(年間)46億人
(1日平均)1,252万人



中京交通圏の輸送人員

(年間)12億人
(1日平均)322万人



首都交通圏：東京駅中心に半径50km
中京交通圏：名古屋駅中心に半径40km
京阪神交通圏：大阪駅中心に半径50km
但し、特に交通不便な地域およびその大半が圏外にある行政区域は除外

資料:国土交通省「平成25年度 鉄道統計年報」
一財)運輸総合研究所「平成27年版 都市交通年報」

(注)円グラフの割合は年間の人員による。
四捨五入のため、合計は必ずしも100%にならない。